

# 春のインターユニ・ゼミナール

32. interuniversitäres Juniorenseminar für deutsche und japanische Kultur

## 参加者募集のお知らせ

テーマ： 私たちの未来：「3.11」のあとで  
Unsere Zukunft nach dem 11. März

- 日時： 2013年3月13日(水)～3月16日(土)
- 場所： 国際医療福祉大学那須セミナーハウス（栃木県那須塩原市）  
東京（池袋駅）から往復のチャーターバス（片道2500円）が用意されます。
- 参加費： 32,000円（3泊4日の宿泊・食事を含む。交通費は別途。）
- 参加資格： ドイツの文化・社会に関心を持ってドイツ語を勉強している学生・院生、および社会人。  
（ドイツ語学習歴が必要ですが、今年度にドイツ語学習を始めたのでかまいません。専攻は問いません。）
- 募集人数： 80名程度

参加申込みは次のサイトから：<http://www.interuni.jp/anmeldung>

みなさんは5年後の自分の未来を、どんなふうに想像しているでしょうか？ 私たち一人ひとりの「未来」のありかたは、単に個人だけの考えや力だけではなく、社会全体の「未来」とも密接に関連しています。

日本の社会は大きな過渡期にさしかかっているようです。デフレ、地球温暖化、少子高齢化、世代間格差、グローバル化、非正規雇用など、暗くて先行きが見えにくい話題が私たちをとりまいています。さらに「3.11」の経験を通じて、私たちは、放射能や原発問題の問題に直面し、社会的コンセンサスを作ることの難しさを体験してきました。「3.11」後の社会はこれからどう変わろうとしているのでしょうか？ そしてそれは、みなさんがそれぞれ思い描く「未来」なのでしょう。インターユニでは、ドイツ語を学びながら、みなさん自身の未来と、「3.11」後の社会の未来について、日本語とドイツ語でさまざまに議論をしてみましよう。



◎ 詳しくは <http://www.interuni.jp> をごらんください。

主催： インターユニ・ゼミナール実行委員会（代表：相澤 啓一、浜崎 桂子）、 共催： 筑波大学 TEACH

協力： Goethe-Institut（ドイツ文化センター） Deutscher Akademischer Austauschdienst（ドイツ学術交流会）

講師（予定）： 足立 信彦（東京大）、相澤 啓一（筑波大）、Stefan Buchenberger（神奈川大）、浜崎 桂子（立教大）、林 志津江（北里大）、Christoph Hendricks（ジャーナリスト）、三澤 真（武蔵大）、三ツ石 祐子（慶應大）、Katharina Muelenz（立教大）、大山 浩太（明治大）、Matthias Pfeifer（静岡県立大）、Marco Schulze（山形大）、須藤 温子（日本大）高橋 優（宇都宮大）、Reinhard Zöllner（ボン大）、他

連絡・問い合わせ先：

<http://www.interuni.jp/mail>

